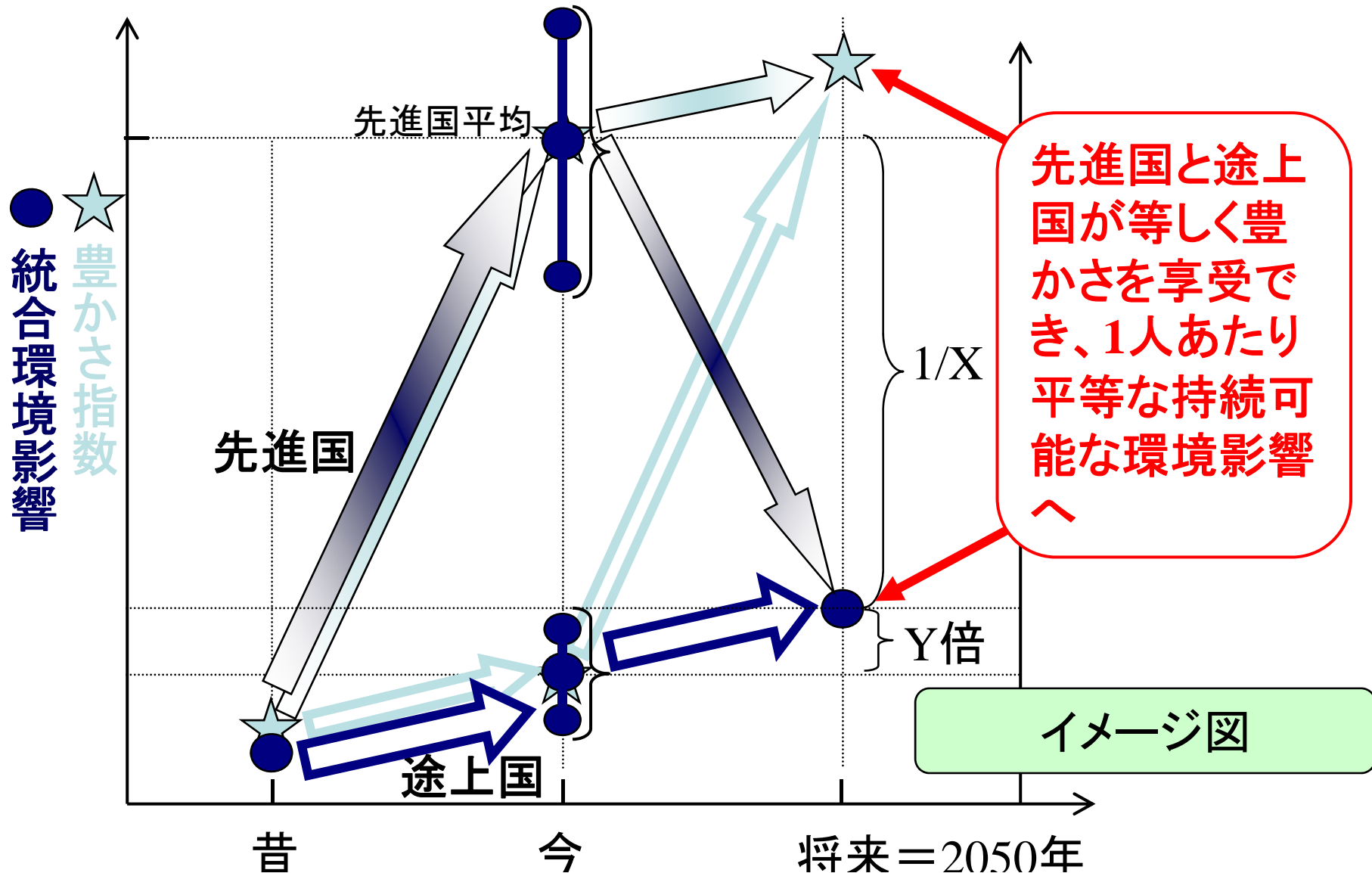


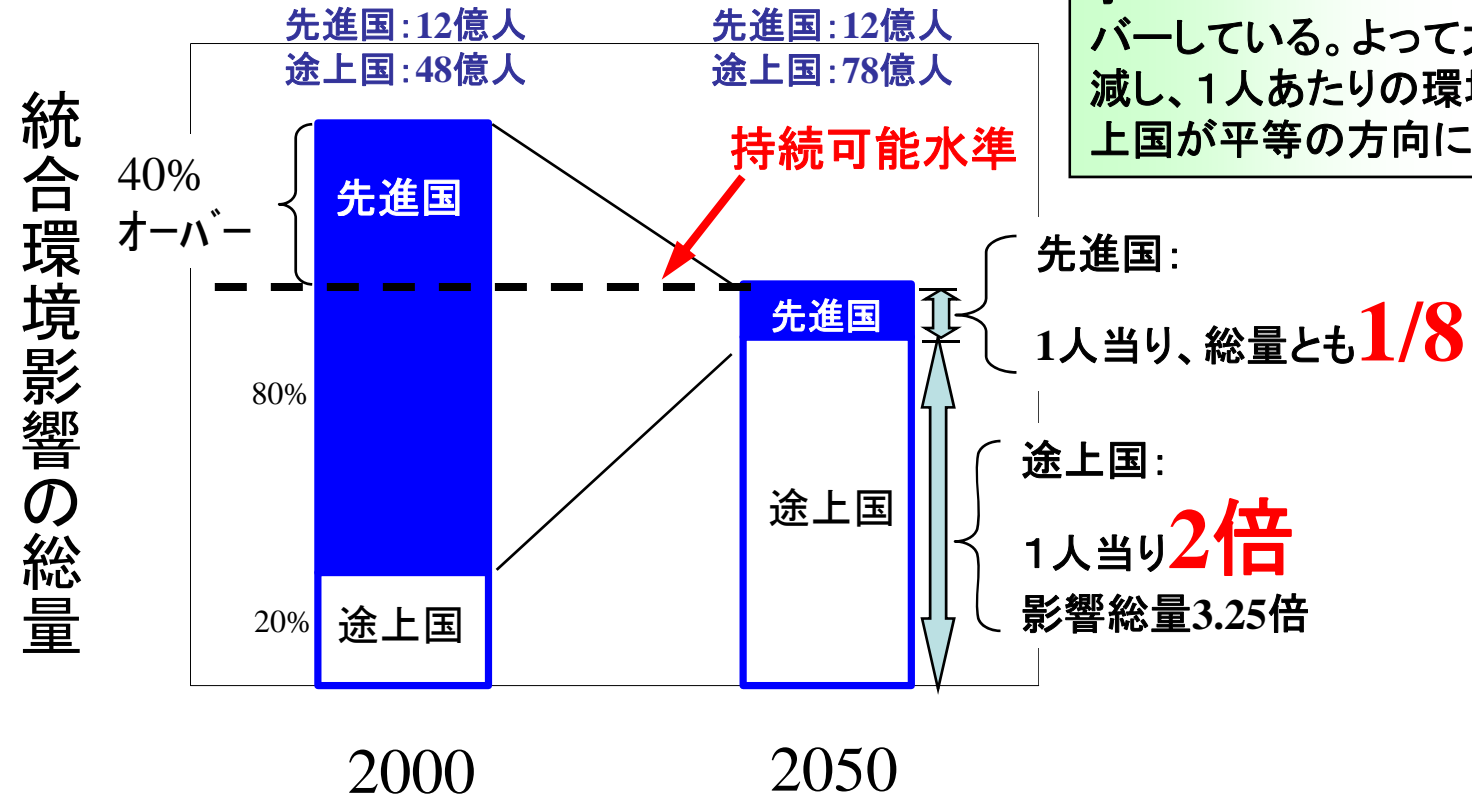
社会のあるべき姿とそこに至るプロセス



※出展: (財)エネルギー総合工学研究所 第186回月例研究会 平成12年12月 講演資料『環境問題の現状と企業への期待』
(山本良一: 東京大学国際産学共同センター教授)

【2050年の統合環境影響レベル】

今後も人口増加・途上国の発展による環境影響増大が起こる。また、今でも40%オーバーしている。よって大幅な環境影響を削減し、1人あたりの環境影響は先進国と途上国が平等の方向に進むと想定する。



温暖化ガス、資源、化学物質による影響もほぼ同様

2007年11月18日 日経新聞

1. 気温上昇のほとんどは人間活動によってもたらされた。
2. 今後20~30年の努力と投資が温暖化ガスの安定化のカギとなる。
3. 温暖化ガスを抑えようとするほど、早期に排出量の削減に転じなければいけない。
4. 気候変動の影響はコスト負担を生む可能性がかなり高く、コストは気温上昇に伴い増える。
5. 温暖化を抑えるには2050年までに全世界のGDPの最大5.5% (約300兆円)のコストが必要。
6. 対策の厳しさに応じ、今世紀の気温は20世紀末で1.1~6.4度上昇。
7. 気温の上昇を2~3度に抑えなければ損失が拡大する。影響抑制には50年までに温暖化ガスの排出を半減させる必要がある。
8. 社会的弱者が温暖化の影響を受けやすい。

RICOH

ご清聴ありがとうございました。